

第22航空隊 部隊改編に際して

穏やかな陽春のなか、安寧のうちに平成30年度が始まり、第22航空隊は、海上自衛隊航空部隊の組織改編に伴い新たな体制へと移行しました。

先立つ3月23日に第22列線整備隊が廃止され、第22整備補給隊隷下の第22機側整備隊となり、そして本日、救難輸送航空隊である第72航空隊が廃止され、当隊に第224飛行隊及び鹿屋航空分遣隊が新編されました。平成20年3月に第22航空隊として開隊してから、ちょうど10年の節目で、4個飛行隊（第221、222、223、224飛行隊）及び鹿屋航空分遣隊から成る、哨戒機（SH-60J/K）と救難輸送機（UH-60J）を運用する、これまでとは全く異質の第22航空隊に生まれ変わりました。

新体制の22空となりましたが、今ここに勤務する隊員一同で、122空、123・124空、大村航空隊、そして第72航空隊、ひいては、鹿屋、小月、徳島救難飛行隊の時代から歴代勤務をした諸先輩隊員たちが、脈々と築いてこられ良き伝統と隊風を引き継ぎ、「精強・即応」かつ“風通しの良い”第22航空隊を築いて参ります。

さて、去る3月22日、派遣海賊対処行動水上部隊第30次隊としての行動のため、SH-60Kを2機、護衛艦「あけぼの」に搭載しました。派遣隊員は、川島1尉以下8名です。出発に際し、大村航空基地で出発行事を行い、大村所在部隊の隊員のほか、防衛協力団体の方々等にお見送り頂き、2機は機体に春の陽射しを浴びつつ大村航空基地を飛び立ちました。そして、3月25日、「あけぼの」は佐世保地方総監、護衛艦隊司令官をはじめ部内外の御来賓ほか、隊員の御家族に見送られ、遥かソマリア沖・アデン湾へ向け、佐世保から出港しました。

派遣搭乗員は、派遣隊長指揮のもと、これまで培った知識、経験を如何なく発揮して第30次水上部隊の任務遂行に尽力してくれることと思います。

また、派遣隊員の御家族の皆様におかれましては、派遣期間中、御不便や御心配をお掛けすることと思いますが、航空隊として最大限のお力になるべく御支援を致しますので、御相談などございましたら、些細なことでも構いませんので、いつでも遠慮なく、御連絡を頂きたく存じます。

結びに、派遣搭乗員の航空安全と第30次水上部隊の任務完遂及び御安航を祈念しますとともに、新体制の第22航空隊に対しまして、今後とも変わらず、皆様の御理解と御支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成30年4月2日

第22航空隊司令 1等海佐 大山 康倫